



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Title	1. 2003年度後学期以降の日本語コース改編について(年報編,2003年度後学期・2004年度前学期)
Author(s)	橋本, 慎吾
Citation	[岐阜大学留学生センター紀要 = Bulletin of the International Student Center Gifu University] no.[2004] p.[23]-[24]
Issue Date	2005-03
Rights	
Version	岐阜大学留学生センター (The International Student Center Gifu University)
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/3420

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

1. 2003 年度後学期以降の日本語コース改編について

留学生センター講師 橋本 慎吾

1.1 経緯

留学生センターは2003年度で8年目を迎えた。もともとは予備教育実施機関として発足したセンターであったが、現在のコースは予備教育にとどまらず、多岐に渡る。しかしながら、新しいコースの開講に伴って運営費が新たに計上できるわけではないので、新コース開講のたびに現行のコマ数を調整し、コース運営を行なってきた。

現在留学生センターが開講しているコースと対象レベルは以下のとおりである。

[予備教育（半年間の短期集中）]

日本語研修コース（1996年度後学期開講）未習・初級

日韓理工系学部留学生事業（2000年度開講）初級終了

[日研生（1年間の総合コース）]

日本語・日本文化研修プログラム（2001年度開講）中級・中上級

[全学対象コース]

日本語補講コース（1996年度後学期より留学生センターで開講）未習・初級・初級終了・中級
学部向け日本語日本事情 上級

全学対象の2コースは当初から明確なレベル設定を行なって開講しているが、予備教育と日研生プログラムは開講期ごとに学生の日本語レベルが異なっており、その都度学生のレベルに合わせた日本語コースを開講してきた。

しかしその現状を全体的な視点で見直すと、各期の学生の日本語レベルが異なるため、例えば中級レベルのクラスが期によって開講されたりされなかったりするなど、一貫性に欠けている。今後もさまざまなケースに対応していかなければならないであろうことを考えると、学生が決まってからレベル設定をするという、まずコースありきの運営方針ではなく、留学生センター全体からの視点でコースデザインを行なう必要があると考え、2003年度秋期から日本語コースの改編を行なうこととなった。

1.2 改編のポイント

(1) レベルの整備

コースによらず、常に固定されたレベルで日本語クラスを開講しておくことにより、さまざまなニーズ、さまざまなコースに対応できる。具体的にはA（未習）・B（初中級）・C（中級）・D（中上級）・E（上級）の5レベルを設定し、A～Dについては月曜～金曜の第1時間目を「総合日本語」と称するコースの核となるクラスとした。この整備により、コースごとのプレイスメントではなく、全体的なプレイスメントが可能になる。

(2) 技能別クラスの整理

日研生プログラムには口頭表現、文章表現、漢字、読解などの技能別クラスが設定されているが、このような技能クラスはどのレベルでも必要である。しかし、これまでは各レベルに対応したクラ

スが全て開講されているわけではなかった。そのため、総合日本語同様、全体的な学習レベルごとに開講することにした。

また、レベルごとに中心となる技能というものがあるのではないかと考えた。例えば B（初級終了）レベルの学生には、初級文法を使いこなすための「会話」授業が多く必要である、といった考え方である。

また、総合日本語はレベルを細かく分けているが、技能のレベルは必ずしも日本語文法知識に対応しているわけではない。文法知識はあるが口の重い学生もいれば、正確な文法運用はできないが日本人とよく話す機会があって会話が上手な学生もいる。つまり、技能のレベルについては、総合日本語よりも大まかなグループを考えることができるのではないかと考え、B（初中級）～ D（上級）を2レベルに分けて技能別クラスを編成した。

(3) コマ数の調整

以上の調整を行なうこととなったが、昨年度と同じコマ数では開講コマ数が十分ではない。そこで、日本語補講の一部を共同開講にすることによって、コマ数の調整を図った。

1.3 改編後の効果

このような観点で改編することにより、次のような効果が期待できる。

- (1) 日本語レベルを核として、適切なクラス設定が可能になる
- (2) 予備教育、日韓、日研生、交換留学生、研究生、院生、といった様々な身分の学生を日本語レベル及びニーズベースで分けることができ、そこにコースの専門性を加えることができる。つまり、柔軟性が高くなるということである。

この紀要は、以上の改編を踏まえての各コースの取り組みについて報告することとなる。